



## ウチワヤンマ (*Sinictinogomphus lavatus*) サナエトンボ科

本州・四国・九州に分布するサナエトンボです。香寺町のため池では、最もよく目にするトンボの一つです。ヤンマのように大きいサナエトンボで、腹の末端近くが団扇のように広がっているのが特徴です。

幼虫は溜池の底にたまった泥の上で生活し、1～2年かけて成虫になります。オスの成虫は水面近くに突き出ている枝先などによく留まります。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



## タイコウチ (*Laccotrephes japonensis*)

タイコウチ科

本州以南の日本全域に分布する3～5cmの平たい体の虫です。尻に付いている呼吸管を空気中に出して息をします。水田やため池の、呼吸管が水面に届くほど浅いところに生息していましたが、中干で水を抜く水田では激減しました。太鼓を叩くような動きをする前脚でオタマジャクシなどを捕えて体液を吸います。写真は幼生ですが、成虫になると翅が背中を覆います。寿命は2～3年で、11月頃に冬眠します。

写真は溝口地区の柝羽新池で撮影しました。



## カイツブリ (*Tachybaptus ruficollis*)

カイツブリ科

にお

鳩と呼ばれた鳥で、数多く生息する琵琶湖は鳩の海と呼ばれました。しかし、1975年に1150羽いた鳩が2001年には542羽に減ってしまったそうです。

20年近く前に細倉大池で、壊れた巣の僅かな草に体を寄せて激しく羽ばたく小さな雛鳥を見ました。しかし、今年はこのような姿を撮影できました。細倉大池では、オオクチバスが駆除されて、カイツブリ親子の平穏な暮らしが取り戻されたようです。

写真は、須加院地区の細倉大池で撮影しました。



## カワラナデシコ (*Dianthus superbus*)

ナデシコ科

北から南まで、日本各地の河原や水田、ため池、用水路など水辺の草地に育ちます。人々に親しまれてきた植物ですが、最近では、草地が減少して少なくなっています。

初夏から秋に、花びらの先が細かく刻まれた、可憐な花を咲かせます。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



## ヒルムシロ (*Potamogeton distinctus*)

ヒルムシロ科

全国に分布する植物ですが、農薬に弱いため減少傾向にある植物です。香寺町では山地に作られた水質の良い、ため池で生育しています。根を土中に下す浮葉植物で、西ノ奥池では水深が浅い堤防の近くに列をなして生育しています。農薬が使われる以前は水田にも多く見られた植物で、水田の蛭が下に敷くむしろ筵という意味で、ヒルムシロと呼ばれました。

写真は相坂地区の西ノ奥池で撮影しました。